

## 研究主題

# 次代を担う子供たちへ

### 1 教育界の現状及び研究主題の設定

昨年は、国の教育課程の見直しに始まり、小学校での英語教育の是非、高校の必修科目未履修問題、いじめを苦にした子供の自殺、そして、教育基本法の改正と教育界にとって多様でかつ変化の激しい年であった。

現代の青少年を見ると、一人一人の力はあるが、それを出し切っていなかったり、自分を大切にせずただ漫然と無気力に過ごしたりしている面が感じられる。また、その力を自分のためだけにしか使おうとせず、人とかかわろうとする意識も希薄であることに、わたしたちは、強く危機感を持っている。

いつの時代においても教育の目的は「一人一人の国民の人格形成」と「国家・社会の形成者の育成」であり、また、子供たち一人一人が、人格の完成を目指し、個人として自立し、それぞれの個性や能力を伸ばし、その可能性を開花させることができるような基礎を培うことが、小学校教育の重要な役割である。

このような時代、教育に携わるわたしたちは、目の前にいる子供たちのよさと課題をしっかりと見極め、本気になって次の時代を担う人材や人間へと教え育むことが最大の課題である。このことをわたしたち教師一人一人が、強く意識し、学校生活の中で子供たちへの熱いメッセージを伝えていくことが大切であろう。

そこで、研究主題を「次代を担う子供たちへ」とし、授業実践そのものを子供たちへのメッセージとして意識し、実践、研究していくことにした。

### 2 目指す子供像

本校では、まず、研究主題の「次代を担う子供たちへ」を研究するにあたり、今、目の前にいる子供たちの10年後、20年後の生き方の基盤となるものを以下のように考え、このように生きている姿を次代を担うことととらえた。

- 自分の力を生かしながら、共に生きる (集団の中で)
- 自分を大切に、自信と誇りを持ってたくましく生きる (個人として)

こうした次代を担う姿に迫るために、小学校の6年間において目指す子供像を下記のように設定し、研究を進めていくことにした。

- ア 自分の力を精一杯発揮しながら、他を思いやり共に学ぶことに喜びを感じる子供
- イ よりよい自分をつくろうとし、自分自身を輝かせようとする子供

### 3 研究の仮説及び研究副主題の設定

研究に当たっては、上記の子供像に迫るために、次の3つの仮説を立てた。

#### 仮説1 (子供像 ア を受けて)

今持っている力を十分に出し、互いに学び合ったことの価値を子供たちが納得できたり実感できたりするような授業の実践を重ねれば、上記の子供像に近づくであろう。

#### 仮説2 (子供像 イ を受けて)

学びの価値を幅広くとらえ、自ら学び自ら考えることを通して、子供が学びの成果や自己の成長を実感し、さらに思いを広げることができるような授業を実践していけば、上

記の子供像に近づくであろう。

**仮説 3** 子供が、共に学び合ったり主体的に学んだりするという視点や各教科、領域の学習における不易と今日の課題という視点から、単元や題材を改善したり開発したりし、子供とともに創る授業を実践していけば、上記の子供像に近づくであろう。

上記の仮説をもとにして、研究の第1年次は、仮説1と仮説3に重点を置き、子供が自分の考えや感じ方をしっかりと持ち、他と学び合いさらに高め合うことでその価値を実感できるような授業を実践していくことにした。

第2年次は、1年次の研究の成果と課題を生かしながら、仮説2と仮説3に重点を置き、子供一人一人の姿に目を向け、授業創りや支援の在り方を探って研究していく。第3年次は、共に学ぶことの価値に気付いたり、自己の成長や変容を実感したりしている姿やそのための単元や題材の有効性について、よりよい教育の方向性を視野に入れながら研究を進めていきたいと考えている。

そこで、今年度の研究副主題を以下のように設定し、授業実践を通して仮説を検証していく。

### 「互いに高め合い響き合う授業の構想」

なお、研究副主題の「互いに高め合い響き合う授業」については、次のように定義し、研究を進めていくことにした。

- 一人一人が自分の考え方や感じ方をしっかりと持ち、それを出し合い、よりよいものを創ったり導き出したりし、集団の学びが最後に一人一人にしっかりと還っていくような授業
- 言葉だけでなく心と心がつながり合ったり共感し合ったりし、共に育つ喜びを感じることができるとような授業

【表1 各教科・領域における「目指す子供像」と「互いに高め合い響き合う授業」の例】

教科等	目指す子供像	互いに高め合い響き合う授業
算数	ア 互いの考えを理解し合い、共に解決することに喜びを感じる子供 イ 現実場面を数理的にとらえ、合理的に解決することに楽しさを感じる子供	○ みんなでアイディアを出し合い、互いの考えを尊重しながら交流し、新たな考えや発見に結び付けていける授業。算数の内容や解決の仕方、現実場面とのつながりなどの中に、多様な楽しさを共に感じられる授業
音楽	ア 友達と共に音楽をつくる中で、音楽の価値を共有したり、共感したりできる子供 イ 生活の中で多様な音楽体験をし、より深く音楽に関わり、音楽の楽しみ方を知ろうとする子供	○ いろいろな曲や友達の演奏などを聴いて感じたことや考えたことをお互いに伝え合うことで自分の音楽的感受力を高めていけるような授業
社会	ア 自分で調べたことと友達の意見を関連付け、自分を社会と結び付けて考えられる子供 イ 進んで問題意識を持ち続け、自分が社会とかかわれる方法で表現する子供	○ 社会の様々な出来事に対して関心を高くして『社会スクラップブック』への累積を進める。そして、互いの意見をよく聴き合い、友達の意見と自分の追究結果を比較して考えたり、身近な生活と関連付けたりして話し合う授業
道徳	ア 自己の道徳的価値観をもとに他とのかかわりを考え、共によりよく生きようとする子供 イ 自分と友達の道徳的価値観の違いやよさを認め、道徳的価値を内面的に自覚しようとする子供	○ 他者の感情を認め、相手の身になって感じたり、その感情を共有したりするなど互いに共感し合いながら、道徳的価値に対する自分の見方・考え方を深めていく授業

#### 4 今年度の研究の内容

1年次は、次の2点を研究の柱として具体的な方策を設定する。

- (1) 一人一人が他を意識し共に学ぶことで、学びの成果を共有し自己の成長を感じられる授業の構想  
(2) 「共に学ぶ・自ら学ぶ」価値を明確にした単元・題材の改善及び開発

- (1) 一人一人が他を意識し共に学ぶことで、学びの成果を共有し自己の成長を感じられる授業の構想  
一人一人が他を意識し共に学ぶためには、まず、子供一人一人が自分の考えや感じ方をしっかりと持つことが大切である。次に、その考えや感じたことを授業の学び合いの中で存分に出し合い、お互いに高め合う。そして、お互いの学びがつながり共感し合ったり学びの成果を共有したりすることで子供は、学びの成果や自己の成長を感じることができると考える。

そこで、「学び合うの前の段階」「学び合い」「学び合いの後の段階」の3つの点から具体的な手立てを考えた。

#### ア 一人一人が自分の考えや感じ方を持つことができるようにするための工夫

子供たちの学習が高め合い響き合う状態になるためには、まず、学び合う前の段階を工夫することが必要である。この段階では、子供たちの興味、関心を高める教材を用意したり提示の仕方を工夫したりするとともに、教材や学習課題をじっくりと考える時間を設定することが大切だと考えた。

そして、子供たちの考えや感じ方を温かい雰囲気の中で自由に出し合えるようにしていくことが、一人一人が他を意識し共に学び、子供が学びの成果や自己の成長を感じられる授業につながっていくと考えた。

そこで、教材や課題、考えるスタイル、雰囲気作りの3つの面から具体的な手立てを考えた。

#### ① 一人一人の考えや感じ方を引き出す力のある教材や課題の提示

##### ○ 「教材の力」の再確認

- ・考え方や感じ方が多様に出るような教材の吟味をする。
- ・対立する考えや比較できるような考えを取り入れた教材や資料を提示する。
- ・子供が興味を持って主体的に学習できるように、子供たちの生活体験や実態、発達段階をとらえ、子供たちの生活から取り上げた身近な課題や内容、切実感を持った内容を大切にする。

##### ○ 体験的な活動や五感を使った活動の見直しとその活用

- ・教室の内外で五感をフルに使った活動など、実際に試したり確かめたりする体験的な学びをより改善し、そこから生まれたものを一人一人の考えや感じ方として大切に認めていく。

##### ○ 「基礎的・基本的な知識・技能」の活用

- ・単元や題材の展開の中で、必ず身に付けなければならない知識や技能を課題という形でおさえ、その身に付けた力を展開の中で発揮できるようにし、真の学力の向上を図る。

#### ② 多様な考えるスタイルの設定

- ・「じっくり考える」「直感を大切に考える」「速く筋道立てて考える」「論理的に考える」等、学習内容に応じて、考える場面を設定するとともに、ねらいにそった考えるスタイルを工夫する。
- ・子供一人一人がじっくりと考える場や課題、お互いの考えや感じ方を出し合い高め合い共感し合えるような場や課題を単元・題材の展開の中に工夫して位置付ける。
- ・自分の力をさらに伸ばすためにどうすればいいかを考え、自分のペースで学習を進めていく時間の設定をする。
- ・一人一人のいろいろな感じ方を大切にし、それが授業の中で様々な形で表れるようにしていく。

#### ③ 教材や対象を素直に受け入れ、主体的に取り組んでいこうとする心の醸成や雰囲気作り

- ・教師が子供一人一人の意見を最後まで聞いたり、一人一人の違いを認めたりすることで、自然で温かい雰囲気を作り、素直な心で友達の考えを受け入れたり、教材や作品を見たりすることができるようにする。

・普段の生活や学級作りにおいて、自分の力や可能性を伸ばそうとする意欲や態度を養う。

## イ 学びの質を高め、互いの学びがにつながる学習集団の形成

学び合いの質を高め、互いの学びがつながり響き合う状態になるためには、まず、学級の子供たちが、一人一人の考え方や感じ方に心をひらいて聴いたり見たりすることが大切であり、形だけの学び合いや単なる情報交換にとどまらないように工夫をする必要がある。

そこで、学び合いの態度面と方法面の2つの面から具体的な手立てを考え、その実践をもとに子供たちの発達段階における支援を整理していきたいと考えている。

### ① 心をかたむけ聴いたり見たりする態度の育成

- ・友達の考えに心をかたむけ聴いたり、違う感じ方や考え方を大切にしたりする場を設定する。
- ・「聴く観点」を吟味し設定することで、相手の考えをよく聴くことができるようにする。
- ・友達の考えを聴き、分からないところやもっと詳しく知りたいことをたずね、それに答えていくような双方向のやりとりを大切にする。

### ② 一人一人の学びが響き合う学習スタイルの開発と支援

- ・発表が、単なる情報交換で終わらずに、それをもとに新しい発見を生み出したり、深く考察したりできるようにする。
- ・子供一人一人が、自分の考え方や感じ方を自信を持って表出できる場、存分に出し合える場、本音で話し合える場、心と心が響き合う場を設定する。
- ・友達の取り組んでいる課題や悩んでいる課題を共有できるような授業展開や授業形態にする。
- ・学び合いのあとにじっくりと考察する時間や場を位置付けることで、集団の学びを一人一人の中で整理し、自分のものにできるようにする。
- ・グループや全員で、一つのものを作り上げていくような学習課題や展開を設定する。

## ウ 学びの成果や自己の成長を感じられる振り返りの工夫

学び合いが、子供一人一人にとって本当に高め合い響き合うものになるためには、授業や単元の終末において、学んだことが、一人一人の子供に還っていくような工夫をする必要がある。そこで、以下のような具体的な手立てを考えた。

### ① 授業の終末における振り返り

- ・学び合った結果から生まれた一人一人の子供の新しい発見を大切にする。
- ・小さな気づきや素朴な疑問、感じ方が、全体の学習に役立ったり、大きな価値のあるものだったりをしたことを、子供たちが改めて気づくような投げかけやまとめをしていく。

### ② 単元の終末における振り返り

- ・単元の初めに「感じたこと・考えたこと」が、授業を通してどのようにふくらんだり深まったりしたのかを具体的に示したり実感したりできるようにする。
- ・学習したことが自分の生活や学級集団で生かされるようにする。
- ・単元や題材の展開の中で、自分の力や可能性を伸ばしたり振り返ったりする場や授業後の活動、オープンエンド的な終末を大切にしていく。

## (2) 「共に学ぶ・自ら学ぶ」価値を明確にした単元・題材の改善及び開発

実際の授業においては、わたしたち教師一人一人が、カリキュラム開発の主体者であることを認識し、仮説3で述べたような、子供が、共に学び合ったり主体的に学んだりするという視点や各教科、領域の学習における不易と今日的課題という視点から、単元や題材を改善したり開発したりすることが大切である。

また、授業や単元の展開等においては、今までの実際の教育現場での実践から得た経験と蓄積を大いに活用し、子供たちにとって記憶に残る授業を目指すことも、次代を担う子供たちへのメッセージとして意義のあることと考えている。

具体的には、以下のような視点から単元・題材の改善及び開発をし、実践を通して、単元・題材そのものを評価・累積していく。

## ア 子供が、共に学び合ったり主体的に学んだりすることからのアプローチ

お互いに心を開き、友達と学び合うことで、自分の考えに自信を持ったり新たな考えを生み出したりすることができる。そして、友達と学んだことをもう一度自分でじっくりと考えさらに学習を進めていく。それが、学校で、共に学ぶよさであり、自ら学ぶよさであるとする。

- ・考え方や感じ方を多様に出したり、対立する考えを比較したりできる場や学習課題を単元・題材の展開の中に位置付けていく。
- ・グループや全員で一つのもので作り上げていくような学習課題や展開を単元・題材に設定する。
- ・子供一人一人がじっくりと考える場やお互いの考えや感じ方を出し合う場を単元・題材の展開の中に位置付けていく。
- ・自分の力や可能性を伸ばしたり振り返ったりする場や時間を単元や題材の展開の中に位置付けていく。

### ○ 具体例

#### ◆ 体育「走り幅跳び」(5年)

- ・走り幅跳びの一連の動きの中で、踏み切りのポイントについて考え試していく時間を設定し、グループで互いの試技を見合いながら、どの角度が望ましいか話し合う活動を取り入れた。そこで、オリンピック選手の例を紹介し、自分たちに合った踏み切り角度を見つけていくために、ゴムを張ってそれを越える場を用意し、アドバイスし合いながら適切な踏み切りの角度を見つけていった。

#### ◆ 特別活動「友達のために力を合わせて」(1年)

- ・転校した「〇〇さんを応援するビデオをつくろう!」という活動テーマで話し合い活動を行った。話し合いの場ではハンドサインを活用し、子供たちが指名し合う形で話し合いを進めたことで互いの意志を明確に示すとともに、多くの意見を出し合うことができた。

## イ 各教科・領域の学習における不易と今日的課題からのアプローチ

各教科・領域の学習を進めるにあたっては、既存の学習内容をそのまま教えるのではなく、各教科・領域の学習における不易と今日的課題をよく検討し、改善・開発していくことが大切である。また、今までに得た教育現場での成果や蓄積を、単元の展開や内容に具体的におろしていくことがよりよい授業につながると考える。

- ・各教科、領域における学校教育の現状と今日的課題をよく検討し、その解決を図ることができるような単元や題材を改善、開発していく。
- ・各教科、領域の学習内容や学習方法の中の価値のあるものを、より良い方法に改善しながら、再構築していく。
- ・教師が願う育てほしい資質や能力などを明確にして、単元や題材を改善、開発していく。

### ○ 具体例

#### ◆ 生活科「出ばつ!ふ小っ子ツアー」(2年)

- ・通学路の途中には、お店があったり、住んでいる人がいたり、川が流れていたり草花が咲いていたりする。自分たちの登下校の方面についてよく知り、そのよさに気付いていくことで、毎日の登下校はより楽しいものとなる。昨今話題の安全面についても、地域のよさにふれることで、地域の方に顔見知りが増えていくことにもつながり、学校の周りの地域をより身近に感じ、地域への愛着を持つことができるようになって考えた。

#### ◆ 家庭科「日本の味『ごはんのみそ汁』を作ろう」(5年)

- ・日本人がこれまで大切にしてきたみそのでき方を聞いたり、だしをじっくりと味わったりする時間をとるようにした。忙しく大量にものを消費する時代である今、子供たちが普段なかなか触れられないものにじっくり触れたことで、先人の知恵が生かされていることに気付き、関心を持ったり大切に扱おうとしたりする気持ちが高まった。